

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪府立住吉高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒545-0035

大阪市阿倍野区北畠2-4-1

E-mail webmaster@sumiyoshi.osaka-c.ed.jp

Website http://www.osaka-c.ed.jp/sumiyoshi/

児童生徒数 男子 335 名 女子 508 名 合計 843 名

児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚・人権感覚の醸成」を学校目標のひとつとして、ESDを持続可能な平和な社会の実現を目指す教育と捉え、ESDの実践を通して、「協働して課題を解決でき、お互いの文化を尊重しながら生きる力」の育成を目標とした。

具体的には、国際理解、人権、伝統文化、環境を柱に、①国際理解・国際交流に係わる活動、②人権・平和に係わる教育、③環境・エネルギーに係わる学習、④伝統文化に係わる活動を行った。

① 国際理解・国際交流に係わる活動

長期滞在の留学生を含め、多くの海外の高校生や教員を迎え、海外研修の機会も多く、一年を通じて、常に異なる文化を背景とする生徒とふれあい理解しあうことによって、様々な課題に対して協働する環境を創出している。本校の生徒にとって、多様な文化を認め合い尊重し合い、協働するのは日常的事務である。このような姿勢を育てるように、国際理解、国際交流を実施している。

② 人権・平和に係わる教育

海外にルーツを持つ生徒が、常に 20 名前後在籍しており、加えて、諸外国からの長期留学生も、毎年 5～10 名程度在籍している。さらに 3 日～1 カ月程度の短期で本校に在籍する生徒も多く、異なる文化背景を持つ生徒との日常的な交流を通じて、人権や平和について考える機会が多い環境を創出することによって、平和を希求する心を育てている。

③ 環境・生物多様性・エネルギーに係わる学習

文科省指定の SSH における取組をきっかけにして、環境や生物多様性、エネルギーについて学校全体で学ぶ機会を創出している。英語の授業においても、エネルギー問題に関してのディベートをすることを通して、環境についてもリサーチなどをして、生徒同士で学び合う機会をつくっている。

④ 伝統文化に係わる活動

本校には伝統芸能、韓国文化研究、中国文化研究などの部活動があり、日本の伝統文化のみならず、異なる文化にルーツを持つ生徒たちの伝統芸能についても、学び合い、伝統を継承する心を育てている。



① 中国のユネスコスクールと学校交流



② チームカンボジアの発表を通して、平和や人権について学び合った



③ 台湾の姉妹校や国内の候補校を招いて、生物多様性や環境について考えた



④ 伝統芸能部による雅楽の演奏

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他 ()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

教科での指導、SSH活動の取り組みなどを通じて実践しているので、通常の教育活動で使用する教材のすべて。例えば、批判的に考える力やコミュニケーション力を指導する教材として「Discover Debate」 by Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington, Language Solutions Inc., 20000 など

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

全校生徒を対象に「総合的な学習の時間」において、本校の活動テーマに沿った講演等を系統的に計画・実施した。そして、長期休暇中にNGO等への訪問や調査等の参加を促す。また、教科の指導等も通して、基礎的な知識や考え方を育てたうえで、2年次に台湾の姉妹校を訪問し交流することで、学んだことを実践する一つの機会としている。さらに希望者を対象に、アジアフィールドスタディーや海外研修、大阪ユネスコスクールネットワークの活動等に参加することによって、学んだことを実際に体験する機会を創出している。
希望者だけが参加して学んだことは、事後にプレゼンやポスターなどを通じて学校全体で共有するように努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

スクールコーディネータ、総合的な学習の時間主担当者、アジアフィールドスタディー主担当者、および有志で、校内にユネスコ委員会を設置している。「総合的な学習の時間」では、主担当者を中心にクラス担任と定期的に打ち合わせをしながら、クラス担任が指導していく。希望者参加の活動に関しては、校内ユネスコ委員会メンバーを中心に計画立案、広報、募集、事前事後指導、実施をする体制を組織している。
また、伝統文化や異文化を学び体験、交流するクラブ活動もある。それぞれのクラブに、指導者がおり、効果的な指導をしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校経営計画のなかに、ユネスコスクールの取り組みの充実を掲げ、学校協議会やホームページなどで公開している。具体的な取り組みのたびに、参加生徒は「振り返り」をする。また、年に2回「学校教育自己診断」として、全校生徒及び保護者、教職員にアンケートをとっている。生徒のアンケートからは「ユネスコの活動に参加して、一歩踏み出す勇気を学んだ。一歩踏み出してみたら、今まで見えなかった景色や新しい友人が広がって世界が広がったと感じた」というような自由記述がみられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

大阪ユネスコスクールネットワーク事務局の一員として、ネットワークが活動する際の運営メンバーとしての役割を担い、活動の成果や方法の共有とフィードバックを受け、さらにそれを、本校の活動をさらに充実させるために役立てている。具体的な一例をあげると、ネットワークの総会や、地域の小学校、その他の団体などで活動成果を発表して、優秀発表として表彰も受けている。それらの機会が生徒たちに自信を与え、さらなる成長の糧になっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

上記⑤でも述べたように、大阪府立大学に事務局をおき、大阪だけでなく、京都、奈良、兵庫、和歌山など関西の他府県の学校も含んで大阪ユネスコスクールネットワークを形成し、事務局の一員として、ネットワークとしての活動の運営に深くかかわっている。また、ネットワークのメンバーである地元の小学校との交流を通じて、地域コミュニティとの連携や交流の機会や、アジア図書館で活動成果の発表をするなど学校外機関との連携もある。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

大阪ユネスコスクールネットワークの活動を通じて、中国、韓国、タイ、フィリピン、リトアニア、スウェーデンの学校などとの交流がある。毎年交流できるわけではないが、ネットワークの活動として、中国とは毎年、ホームステイを含む学び合い交流会を持っている。また、学校独自の海外のユネスコスクールの交流としては、ニュージーランドのシュタイナー学校との交流を通じて、エネルギーや人口問題、平和など、地球規模の課題について学び合う機会がある。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校はもともと、在日韓国朝鮮人が多く住む地域を校区に含み、異なる文化背景を持つ生徒が多く在籍してきた。特に、平成17年度に国際科学高校として再編されてからは、その他の国にルーツを持つ生徒数がさらに増加し、また、短期留学生を含む様々な国籍の留学生を受け入れる学校となった。このような学校独自の事情により、ユネスコスクールになる以前から、人権、平和、国際理解、国際交流等について、生徒教員や保護者の姿勢、クラブ活動など特筆すべきものがあったが、ユネスコスクールに指定されたことにより、それらの活動に理論的な裏付けや、国内外の学校との体系的な学び合いなどがさらに充実した。また、ユネスコスクールへの加盟と時を同じくして、文部科学省のSSHにも指定され、生物多様性や、環境、エネルギーなどへの興味関心と学習もより深まった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度においても、これまでと同じ方向で、いままで培ってきたものをさらに充実、深化させていく計画である。

つまり、ユネスコの掲げる活動のテーマ（国際理解、国際交流、平和、人権、環境、伝統文化、教育）を日々の教育活動の中で実践することを通じて、持続可能な平和な未来に貢献できる人材を育てることを目標とする。

そして、学校経営計画の柱のひとつとして「世界で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚・人権感覚の醸成」をめざすことを掲げる。ESDを持続可能な平和な社会の実現を目指す人材を育てる教育と捉え、ESDの実践を通して、「さまざまな文化背景をもつさまざまな人間と協働して課題を解決でき、お互いの文化を尊重しながら生きる力」を育成することを目標とする。

具体的には、国際理解、人権、伝統文化、環境を柱に、①国際理解・国際交流に係わる活動、②人権・平和に係わる教育、③環境・エネルギーに係わる学習、④伝統文化に係わる活動を行う計画である。